

港湾における中長期政策の検討について

平成28年7月4日

港湾局

【我が国を取り巻く大きな潮流】

【2030年に向け我が国が直面する課題】

前回
(4月25日)
港湾分科会
にて審議

【港湾における中長期政策検討に向けた論点整理(案)】

- ・我が国が直面する課題に対応するため「港湾の果たすべき役割」は何か？
- ・7つの視点を踏まえ「港湾の果たすべき役割」を論点項目として整理

本日
(7月4日)
港湾分科会
にて審議

【港湾政策の目指すべき方向性(柱立て素案)】

- ①重層的で効率的な海上交通ネットワークの形成
- ②新たな技術や産業を生み出し、世界をリードする産業・海洋空間の形成
- ③世界に誇る文化・交流空間の形成
- ④国民生活・産業活動を守る防災拠点・ネットワークの形成

次回以降
審議予定

【各柱立てにおける具体的な政策の検討】

1. 人口減少社会

- ✓ 人口減少、少子高齢化による担い手不足と市場の成熟化
- ✓ 都市部への集中に伴う、地方部の人口減少及び活力の低下

2. 成長するアジア諸国等と我が国の緊密化

- ✓ 2030年に向けて、アジア諸国(特に東南アジア)は引き続き経済成長
- ✓ 物流、人流の両面でアジア諸国と世界(日本含む)との交流の活発化
- ✓ 産業の国際分業、地産地消が進むことで、更に日本とアジアの関係がフラット化

3. ICT等の新技術を活用した社会の到来

- ✓ 新技術の発展に伴う、社会の変革
- ✓ 新技術の導入及び活用が当然の社会
- ✓ 新技術が社会の課題及び問題の解決手段であるとともに、変化への対応スピードが加速する社会

2030年に向け我が国が直面する課題

- ①人口減少に伴う市場の成熟化及び生産人口の減少に伴う担い手不足。
- ②アジアや新興国の成長に伴う、我が国の国際競争力の相対的低下。
- ③特に、地方部の人口減少に伴う地域経済の衰退。
- ④ICTや自動化等の導入による生産性革命への対応。
- ⑤設備やインフラの老朽化・陳腐化に伴う我が国の産業競争力の低下。
- ⑥大規模地震等の自然災害リスク、国際テロ等の脅威増大。
- ⑦世界的な資源・エネルギー需要の拡大に伴う、調達コストやリスクの増大。
- ⑧地政学的変動による資源調達や輸送ルート等への影響。
- ⑨地球環境問題等を踏まえた環境規制の強化への対応。

課題解決に向け港灣の果たすべき役割は？

視点(1):経済成長戦略

- I:人口減少社会の中で、産業の生産性向上を図り、我が国経済の維持・拡大を実現するために港灣がどのような役割を果たすべきか。
- II:アジアの経済成長や世界的な経済連携が進む中、海外の活力を取り込むとともに、我が国の輸出促進等のために、世界戦略的視点に立った港灣政策をどう展開すべきか。
- III:地域経済の活性化を図るために、臨界部の利活用や産業構造の再編等の動向を踏まえ、港灣政策をどう展開すべきか。
- IV:社会の情報化やシステム化が進展する中、新たな技術を港灣政策の中でどのように活用していくべきか。

視点(2):港灣防災・セキュリティ政策・老朽化対策

- V:人命や産業が集中する臨海部において、自然災害リスク、高まる国際テロ等の脅威に対してどのように備えるべきか。また、港灣施設の老朽化が進む中、将来にわたって港灣機能を発揮するためにどのように対応していくべきか。

視点(3):資源・環境・エネルギー政策

- VI:輸入依存度の高い資源・エネルギーを将来にわたって安定的かつ低廉に確保するために、港灣がどのような役割を果たすべきか。
- VII:世界的に地球環境問題への関心が高まる中、再生可能エネルギーの普及や環境との調和を図るために港灣政策をどう展開すべきか。

論点

論点①

論点②

・
・
・

論点③